

やっぱり本屋は面白い！2016年度書店発のベストセラー！

# 「文庫X」はこれだ！

## 「文庫X」通信

発行所  
新潮社  
新宿区矢来町  
12月9日  
(金曜日)  
2号

「文庫X」に携わった  
全ての方に感謝をこめて

「文庫X」と呼ばれて

表裏に熱い言葉が並んだ「文庫

X」。そんなカバーに包まれていたのは「殺人犯はそこにいる 隠蔽された北関東連続幼女誘拐殺人事件」という本でした。私が著者です。お読み頂いた皆様に御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

「文庫X」の存在を私が知ったのは8月の暑い盛りのことでした。東北の一書店でそんなタイトルで販売されています、と編集者から連絡をもらったのです。タイトルを伏せていることについて著者の考えを問われたのです……。

### 《文庫X略歴》

7/21: さわや書店フェザン店にてスタート  
9/23: 展開書店 100 軒突破  
10/26: フェザン店にて 3000 冊売れる  
11/14: 全都道府県に展開拡大  
12/9: その正体が明らかに…

たまたま秋田に向かう予定があった私は、新幹線「こまち号」を盛岡駅で途中下車し、さわや書店さんに立ち寄りまして。店頭のワゴンに積まれた「文庫X」。それが初対面でした。

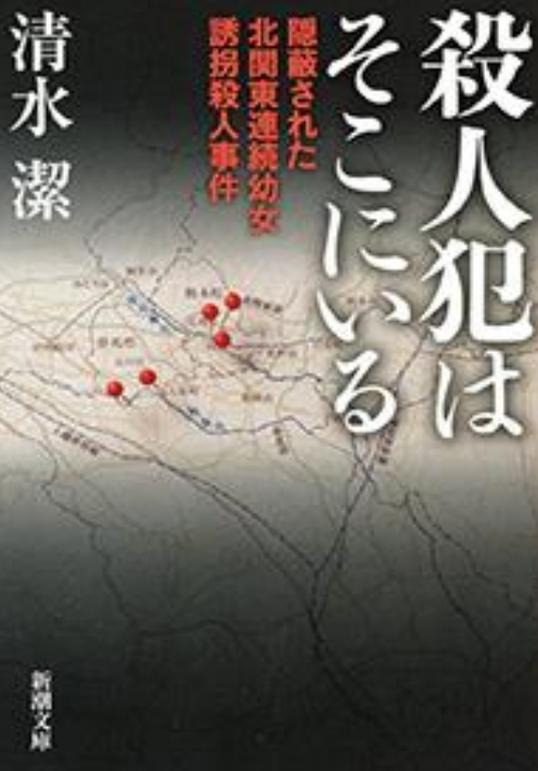
「この本を読んで心が動かされない人はいない、と固く信じています」企画者である長江さんの強い言葉が並ぶモノクロのカバーに強い印象を受けました。氏は本の情報を一旦遮断するという手法で、逆に強烈なスポットライトを当てたのです。私は静かに「文庫X」を見守ることに決めました。

その後の勢いには驚愕しました。企画に賛同した多くの書店が次々と名乗りを上げて店頭に並べてくれたのです。東京、名古屋、大阪、広島、札幌……。中身もわからぬ本を多くの人が手にしていくという奇跡は拡散、封を切った読者の声も聞こえてきました。「普段なら手を出さない分野」「失敗したかも……」ところが読後感「出会えてよかった」「『文庫X』は絶対に読むべき本」「知らなかったこと

ばかりだった」と多くの声も頂きました。

一方でジャーナリストという立場からすれば、単に本が売れたと手放しで喜べるわけではありません。本書でお伝えしたのは現実に起きた事件です。幾人もの被害者がいて、遺族がいる。隠されていた冤罪の闇。そして何より未解決の殺人事件。罪を償わぬ連続殺人犯が今も平然と野放しとなっているのです。事件再発の可能性を否定できないならば警鐘を鳴らせ！これが本書を世に送り出した真意でした。ならば、本書のタイトルやカバーがどう変化を遂げていこうか、それは瑣末なことなのです。隠された事実をとにかく伝える。それがどんな方法であれ。私のそんな真意を誰よりも理解してくれたのが長江さんその人だったのだと思います。ここに深く御礼を申し上げます。

2016年12月9日 清水 潔



### 《作品データ》

『殺人犯はそこにいる  
隠蔽された北関東連続幼女誘拐殺人事件』

著者: 清水 潔

刊行年月日: 【単行本】2013年12月  
(ISBN: 978-4-10-440502-2)

【文庫】2016年5月  
(ISBN: 978-4-10-149222-3)

受賞歴: 新潮ドキュメント賞  
日本推理作家協会賞受賞

### 《著者データ》

清水 潔 (しみず・きよし)

1958(昭和33)年、東京都生れ。ジャーナリスト。新潮社「FOCUS」編集部を経て、2015年7月現在は日本テレビ報道局記者・解説委員。2014年、『殺人犯はそこにいる』で新潮ドキュメント賞、日本推理作家協会賞(評論その他の部門)を受賞。著書に『桶川ストーカー殺人事件 遺言』『騙されてたまるか 調査報道の裏側』『「南京事件」を調査せよ』がある。事件の動静についてはTwitter(@NOSUKE0607)でも発信中。

盛岡●さわや書店フェザン店  
長江貴士

初回60冊仕入れた。時間は掛かってもいいから30冊は売ろう、と買って始めた。その60冊が、5日で売り切れた。そこから、すべてが始まった。『殺人犯はそこにいる』という本は、「文庫X」と呼ばれるようになった。

「文庫X」という企画については、感謝しかない。自由な社風、取り扱いは始めてくれた書店、取り上げてくれたメディア、ネットや口コミで広めてくれた人たち。その他様々な形で関わってくれた大勢の方々には、本当に感謝しかない。その中で僕が一番感謝したいのは、当店のお客さんだ。特にその中でも、最初の60冊を買ってくれたお客さん。まだ話題になっっているわけでもない中、中身がまるで分からない本を810円も出して買ってくれた60人。この方々がいなければ、「頑張っって30冊売ろう」が、「もしかしたらあの凄いいことになるのかも」かもしれない。に変わることもなかった。「文庫X」が全国に広がることもなかった。本当に、ありがとうございます。

「文庫X」を買って読んでくれた方々には、こう伝えたい。「今の自分の関心の外側にあるモノが、あなたの人生を揺さぶることもあるのだ」と。先入観や思い込みが人生の彩りを奪ってしまう。そういう認識を、この「文庫X」という企画を通して感じていただけたら、企画者としてこんなに嬉しいことはない。最後に。この素晴らしい本を執念で書き上げてくれた著者に、最大限の敬意と感謝を伝えたい。「文庫X」の試みを成功だと評価していただけるとすれば、その要因の大半は著者の執念に拠っていると、「文庫X」の広がりを見ながら改めて思う。

北海道●文教堂北野店(若木ひとえ)

「そこ」にいる犯人へ。「そこ」がどこで「誰か」あのようなことをしたのか、日本中の人たちが知るところとなる日は近いはず。誰も見ていないわけではない。きつと誰かが見ていたでしょう。そして気づいていなかった人も本書を読むことで、他人事とは思えなくなるはず。他人事とは思えなくなるはずです。

東京都●大盛堂書店(山本亮) 清水潔さんの本当の意味での底知れない覚悟を感じたのは、本書が発売された後に出版された『騙されてたまるか』調査報道の裏側(新潮新書)を読んでからだ。その逃げずに相対する切実さが溢れるこの文庫版が発売されたことよって、清水さんが伝えたいことがより世の中へ広がって欲しいと切に願っています。

東京都●三省堂書店成城店(大西香苗) 真実とは、信頼とは、保身とは、良心とは、悪意とは、風潮とは、メディアの一端に携わる身としてギリギリしながら一気に読了したのを昨日のこのように思い出せます。これは私たちが知っておくべき《事実》です。ぜひ小さき声に耳を傾けて下さい。悲劇を繰り返さないために、真相に近づけるために、このノンフィクションの金字塔を是非。  
神奈川県●サクラ書店ラスカ平塚店(柳下博幸) 題名を見てピンとこない人も「パチンコ屋から連れ去られる女の子の防犯カメラ映像」と言えば伝わるかもしれない象徴的な事件。脳裏に焼き付いた禍々しい記憶。そしてこの事件は終わっていない。だからこそすべての人に読んで欲しい。それが興味本位だとしても。過去にしていけない真実の追及を知って欲しい1冊「文庫X」愛知県●ジュンク堂書店ロフト名古屋店(石本秀一) 取材に来た新聞記者に「あなたたちにま

ず読んでもらわれないといけない本です」と

世の中に届けられ「日本を動かす」ことができるのか? まだまだみんなで売り続けなければなりません。  
愛知県●ジュンク堂書店ロフト名古屋店(遠藤愛子) 幼い犠牲者たちは自分と同年代でした。悲しみと怒りが沸き上がりました。早く真犯人が捕まりますように。冤罪が無くなり

ますように。「ごめんなさい」と素直に謝る心を、皆が思い出しますように。この本はこの先も読む人に衝撃とたくさんの希望を与え続けてくれるでしょう。しっかりと売り続けていかねば、と思います。  
愛知県●精文館書店中島新町店(久田かおり) 誰かが「無実」を証明してくれたとして失われた年月は戻っては来ない。着せられた汚名も完全にぬぐい去れはしない。冤罪を贖うことなど誰にもできはしない。けれど本心に恐ろしいのは冤罪の向こうで真犯人が野放しになっているということ。私たちが守ってくれるはずの警察官、検察官、裁判官の「正義」の心を信じさせてほしい。

大阪府●紀伊國屋書店(大分府) 書評で何度も紹介されているのは知っていた。けれど自分では未読だった。小説は好きだけれどノンフィクションはほとんど読まない。だからこそ、この企画に乗ろうと思った。私が、読めたから。読んで、衝撃を受け、じっとしていられなくなったから。私たちが、当事者なのだ。一読者として、出会わせてくれた長江さんに感謝します。  
大阪府●栗林書房(栗林秀一) 最近、事件の解明に大きく関わる「DN A型鑑定」。これによって、菅家さんは実

に不条理な人生をおくるのですが、国家権

力に立ち向かい、菅家さんの人生を取り戻し、何よりこの事件を世に知らしめた清水氏の執念に感服しました。  
兵庫県●ダイハン書房(山ノ上純) ノンフィクションを読んで、知らない現実や真実を知ったとき《無知は時には罪な事》と思われれます。この本を読んだ時もそうでした。多くの人が知らなかったり、無関心であったために命を落とす人がいるかもしれないのです。もしいつか、自分が事件に巻き込まれたら、知識はきつと力になる。この本に出合えて良かったです。

広島県●啓文社西条店(三島政幸) 本書は、いまだ未解決の事件について犯人をズバリ指摘してしまう、驚愕のルポである。と同時に、ここまで状況が明らかなのに、犯人を逮捕できない(いや、しない)警察に対する告発の書だ。本書を日本推理作家協会賞にした日本推理作家協会の正義感には素晴らしいと思う。  
福岡県●ブックセンター(原田みわ) 「文庫X」と『殺人犯はそこにいる』私にとっても心に刺さる内容でした。実際に事件の関係者の方々はこの何万倍もの怒りと憤りを抱えていらつしやることだと思えます。社会に動いて欲しい、この本を読んだ皆様の力を信じてます!

大分県●明林堂書店JR別府店(後藤良子) マスコミ志望のあなたも司法志望のあなたも、ワイドショーが大好きなあなたにも。この一冊はどうしても外せない。  
沖縄県●戸田書店豊見城店(田中寛行) 聞いてほしい。著者がすくい上げ、かろうじてつなぎ止めた、この小さな声、私たちに差し出された、このかすかな叫び声を。そして、このようなことが現実起こったという事実を、あなたのなかに刻み付けてほしい。事件は、まだ解決していない。